

## 目次

口絵	
地図	
刊行に寄せて	平野由紀子
簡単な紹介	

### 第一部 ジョリオ・キュリー夫妻を師として

#### I 序——一九四〇年初頭までのあらまし…………… 30

1 年子 一九四〇年の旅立ちまで 30

2 ジョリオ・キュリー夫妻 一九四〇年初頭までの略伝 41

附 一九四〇年初頭までのフランスの政治・社会状況 52

#### II 年子と独占領下の仏科学者たち…………… 55

1 コレージュ・ド・フランス原子核化学研究所 56

- 2 パリが緊急事態に 64
- 3 パリ占領期の始まり（一九四〇年六月～十二月） 66
- 4 ドイツ勢力全盛時代（一九四二年～四二年半ば） 81
- 5 ドイツ勢力衰退に向かう（一九四二年半ば～四四年五月） 88
- 6 パリ解放とドイツへの逃避行（一九四四年六月～八月） 97

III 崩れゆくベルリンで……………101

IV 科学と平和のために——年子が見た戦後のジョリオ・キュリー……………115

- 1 CNRSの改革 116
- 2 フランス第一号の原子炉 118
- 3 平和運動 122
- 4 オルセー原子核研究所 128
- 附 ヒロシマ 131

V 年子が回想するジョリオ・キュリー夫妻……………135

- 1 イレーヌ・ジョリオ・キュリー夫人の思い出 135
- 2 フレデリック・ジョリオ・キュリー教授を偲ぶ 143
- 附 F・ジョリオ・キュリー教授の手紙 154

第二部 年子の立体像を求めて

I 年子のなかのキュリー夫人……………166

- 附 ソーの墓地とパンテオン 177

II 年子の原子核研究をめぐって——一九四九～八〇年……………184

- 1 年子の科学する心 184
- 2 原子核分光学の研究（一九四九～五八年） 186
- 3 核反応の研究——オルセー原子核研究所で（一九五八～六七年） 189
- 4 少数核子系の研究——オルセー原子核研究所で（一九六七～八〇年） 192
- 5 日仏共同研究 194
- 6 年子にとつての実験物理 197

III 年子の科学と文芸……………201

- 1 科学する心と文芸 201
- 2 年子の著作——前期（再渡仏前まで） 208
- 3 年子の著作——後期（一九五〇年以降） 216
- 4 短歌・詩・スケッチなど 224

IV 年子の科学と宗教——そして老いと病と死と……………228

1 「科学と宗教」への視線……………228

2 死は近きにあり……………233

3 「病人憲章」を書く……………236

4 科学と神、そして生と死と……………239

V 年子と祖国日本……………246

1 敗戦の祖国で（一九四五年七月～四九年二月）……………246

2 女性と科学の問題……………251

3 保井コノ先生……………255

4 祖国への苦言……………263

5 日仏文化交流……………271

6 祖国は日本……………277

第三部 回想

湯浅年子先生に捧ぐ……………282

I 湯浅年子回想——フランスの知友による……………284

湯浅年子姉を悼む……………284

湯浅年子氏への誄辞（一）……………287

湯浅年子氏への誄辞（二）……………290

ミッシェル・リュウ……………284

アニー・ゲノー……………287

ジゼール・ヴェルニユ……………290

思い出の湯浅年子先生……………293  
エレヌ・ランジュヴァン||ジョリオ

II 湯浅年子追想——日本の知友による……………302

湯浅年子博士逝く……………302

湯浅年子さんへの弔辞……………304

鎮魂 湯浅年子先生——巴里に死す——……………308

日仏共同研究覚書……………316

湯浅年子先生の思い出……………323

桑折範彦……………302

伏見康治……………304

坂井光夫……………308

柳父琢治……………316

伊藤栄彦……………323

III 追懐——親族の方々による……………331

叔母・湯浅年子を偲んで……………331

遠くて近い存在……………331

帰らなかつた叔母……………331

心あたたまる思い出……………331

橘家と年子伯母……………331

市井敏夫……………331

市井礼奈……………331

浅野侑三……………331

浅野敦子……………331

橘 道夫……………331

IV 思い出すことども——友人・後輩たちによる……………364

『「すぢの葦」から……………364

湯浅年子氏を詠む……………369

恩師 湯浅年子先生……………369

長倉八重子・他同級生……………364

井上たか子……………369

神谷美子……………369

	湯浅先生の思い出	大野鑑子	376
	湯浅先生の思い出	高梨節子	377
	先生 ありがとうございました	勝岡千恵子	382
	湯浅先生と私	山崎美和恵	386
V	遺された資料にみる湯浅年子		394
	湯浅資料の整理に携わって	松田久子	394
	「湯浅資料」がもたらした続けるもの	館かおる	398
VI	エピソードいろいろ——思い出とまじり		401
VII	湯浅年子の碑建立		434
VIII	「湯浅年子」その後	河井扶桑子	444
		菅本品夫	446
		小山直子	448
	あとがき		458
	参考図書・年表・系図		462